

再評価結果（平成23年度事業継続箇所）

担当課：道路局 国道・防災課
担当課長名：三浦 真紀

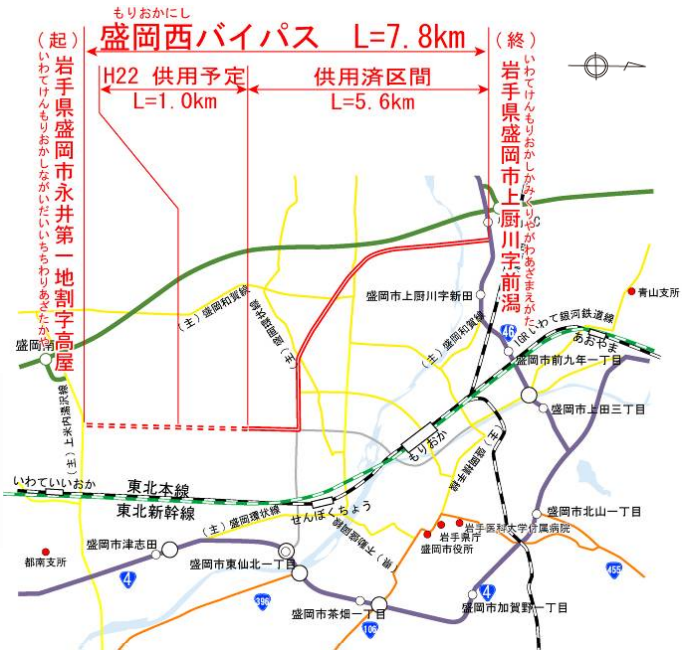
事業名	一般国道46号 <small>もりおかにし</small> 盛岡西バイパス	事業区分	一般国道	事業主体	国土交通省 東北地方整備局
起終点	自： <small>いわてけんもりおかしながいだいいちちわりあざたかや</small> 岩手県盛岡市永井第一地割字高屋 至： <small>いわてけんもりおかしかがみくりやがわあざまえた</small> 岩手県盛岡市上厨 川字前湯	延長	7.8 km		
事業概要	<p>一般国道46号は、<small>いわてけんもりおかし あきたけんあきたし</small> 岩手県盛岡市と秋田県秋田市を結び、広域交流の支援ならびに沿線市町村の連携強化を図る幹線道路である。</p> <p>盛岡西バイパスは、盛岡市内の国道4号及び国道46号等の交通混雑緩和、交通安全の確保、沿線都市開発の支援、広域連携の促進、救急医療施設へのアクセス向上等を目的とした事業である。</p>				
S59年度事業化 (平成14年度事業延伸)	S59年度都市計画決定	S61年度用地着手	S62年度工事着手		
全体事業費	430億円	事業進捗率	67%	供用済延長	5.6 km
計画交通量	32,100台/日				
費用対効果 分析結果	B/C (事業全体) 1.9	総費用 (残事業)/ (事業全体) 137億円/583億円	総便益 (残事業)/ (事業全体) 721億円/1085億円	基準年 平成22年	
	(残事業) 5.3	事業費：100億円/538億円 維持管理費：37億円/45億円	走行時間短縮便益：657億円/994億円 走行経費減少便益：52億円/72億円 交通事故減少便益：12億円/18億円		
感度分析の結果	残事業について感度分析を実施 【残事業】 交通量変動：B/C=5.6(交通量 +10%) B/C=5.0(交通量 -10%) 事業費変動：B/C=4.9(事業費 +10%) B/C=5.7(事業費 -10%) 事業期間変動：B/C=4.9(事業期間 +20%) B/C=5.6(事業期間 -20%)				
事業の効果等	①市街地の交通混雑緩和 ・現道区間（国道4号・国道46号等）の渋滞緩和（渋滞ポイント5箇所等）が期待される。 ②交通事故の安全性向上 ・追突事故をはじめとした交通事故（区間平均死傷事故率77.8件/億台キロ・管内平均比約2倍：最大死傷事故率792.7件/億台キロ等）の低減が期待される。				
関係する地方公共団体等の意見	岩手県（知事）、盛岡市（市長）などの団体等から、盛岡西バイパスの整備促進について要望がある。 県知事の意見：事業の継続に異議はありません。本事業は、国道4号及び46号の交通混雑緩和、盛岡市の都市開発の誘導などを図るために重要な事業であることから、着実な整備の推進を図り、早期の全線供用に努めていただきたい。なお、事業実施に当たっては、一層のコスト縮減など、より効率的な事業推進に努められるようお願いしたい。				
事業評価監視委員会の意見	対応方針（原案）どおり「継続」が妥当である。 なお、以下の意見があった。 事業執行にあたっては、特に用地買収など地元自治体の協力が必要なものについて、適切に調整を行うこと。				
事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等	この事業の目的が失われるような道路交通状況の変化及び関連プロジェクト等の変更はない。				
事業の進捗状況、残事業の内容等	事業進捗率67%、うち用地進捗率70%				
事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等	事業進捗に係る問題はない。早期の供用を目指す。				
施設の構造や工法の変更等	・工期短縮に効果的で経済的なプレキャスト長尺製品を使用するとともに、再生資材（再生砕石、アスファルト合材等）を活用し、コスト縮減を図る。				
対応方針	事業継続				
対応方針決定の理由	以上の状況を勘案すれば、当初からの事業の必要性、重要性は変わらないと考えられる。				

事業概要図



盛岡西バイパス

- 凡 例
- 事業区間
 - 高規格幹線道路
 - 一般国道
 - 補助国道
 - 主要地方道・一般県道
 - 鉄道
- センサス調査地点
- 主要渋滞ポイント



※ 総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したもの。
 ※ 総費用及び総便益の値は、表示桁数の関係で内訳の合計と一致しないことがある。